研究課題名

①HTLV-1母子感染予防に関する研究: HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究

②HTLV-1検査で判定保留例となった妊婦におけるウエスタンブロット（WB）法再検討ならびにPCR法による感染の有無とウイルス量の定量に関する研究

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（承認番号　H27中倫小第１１号）

研究実施についてのお知らせ

　沖縄県立中部病院総合周産期母子医療センターでは、HTLV-1母子感染予防に関する研究を実施しております。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２７年６月１０日

【研究課題名】

①HTLV-1母子感染予防に関する研究: HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究

②HTLV-1検査で判定保留例となった妊婦におけるウエスタンブロット（WB）法再検討ならびにPCR法による感染の有無とウイルス量の定量に関する研究

【研究期間】

2012年1月から開始。

当初2014年3月で登録終了でしたが、登録目標症例数（3000例）まで延長中です。

【調査対象】

妊婦健診におけるHTLV-1スクリーニング検査にて抗体陽性となり、確認検査（WB法）で陽性あるいは判定保留となった方。

【研究目的・意義】

①HTLV-1母子感染の主要な感染経路は母乳であり、母子感染対策として人工栄養あるいは短期間の母乳栄養、凍結・解凍母乳（冷凍母乳）を与えることが推奨されていますが、その感染率についてのデータは検討された対象数が少なく科学的根拠が不十分だといわれています。また、選択された各種栄養法が児の健康や母子関係にどのような影響を及ぼすのかについてもよく分かっていません。本研究は、信頼性の高い栄養法別の感染率データを得ること、各種乳汁栄養が児の健康や発達、および母子関係に与える影響もあわせて検討することを目的としています。

②現在10-20%程度あるウエスタンブロット（WB）法判定保留（検査結果がはっきりしない）について、よりきちんと判断できる確認検査法を開発することを目的としています。

【研究の方法】

①妊婦健診におけるHTLV-1スクリーニング検査にて抗体陽性となり、確認検査（WB法）で陽性あるいは判定保留となった方に対して、カウンセリング後乳汁栄養法を選択していただきます。児の出生後、定期的な外来診療、各種アンケート等に協力いただき、３歳時点でHTLV-1抗体検査にて母子感染について評価します。

②HTLV-1スクリーニング検査にて抗体陽性となり、確認検査（WB法）で判定保留となった妊婦さんより採血させていただき、PCR法やWB法の改良のための検討材料とさせていただきます。

【個人情報の取扱い】

個人データはすべて匿名化されて登録されます。

【研究機関】

厚生労働科学研究費補助成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業　により実施されています。

主任研究者は　昭和大学医学部小児科学　板橋家頭夫教授　です。

【本研究に関する問い合わせ先】

沖縄県立中部病院　総合周産期母子医療センター

産科　 大畑　尚子

新生児科　 木里　頼子